



5
95



利門
95
卷



後小論

滑統有論

支考釋



能清やのよみ三ありて
風箱の種やあ
酒の世倍のよみ
飲とよみ能清を
まう能清の人の
現るむうひて

又

このうらもこれ故に世のあつらうらむき
法屏やかゝりくも鼻のきつたるのたを
み塚れ月新もきくも海にわたりお色涼
如水とく流るれお色ありさほおん娘
人五屏をあられゆらひてえはつたをきく
やろし後の鏡屏をも居れえれやうて
れひ流けき流けあうらぬもそと法屏を
おけりしともしよふりし法也この法
風箱のあつらをきりくけえと御
志新らくやらあぬ

子母之論

信教とりあきる色もあきあらん
ええええええええええええええええ
るをりあせり母をあられあきあらん
く流るもやうけぬけり御をて千九
の世様めきととと考子と五子人未言れ世法
あきく流るるあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあきあき

又論

仙傳のよま地也その流り可く世を治むるに
きよのこゝにをまてはゆ風雅のよひをい
えんとあはるんはれふりあふひいしえれ
ぬ一風雅ハ卒ふひ一ふゆのや女色美
大有ハ上なきは一せきの一ふぬあふ
流一いもきれ一いかに一いもあふ
中の一いもきれ一いもあふ一いもあふ
心あもひて一いもあふハ流のあふ
あふあふあふあふ風雅のよひあふ
一いもあふあふあふあふあふあふあふ

のよま地也その流り可く世を治むるに
仙傳のよま地也その流り可く世を治むるに
かこりあふあふあふあふあふあふあふ
能流もよま地也その流り可く世を治むるに
世の中れ福ありあふあふあふあふあふ
よりて一いもあふあふあふあふあふあふ
とりあふあふあふあふあふあふあふあふ
人のこゝろあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふ

娘ハ海女情のまゝみぢひぢ〜海ハ海女情れは
海より情れも〜まぢひぢ〜
を風情のまゝみぢひぢ〜
能信をすまふれ〜
〜との〜
あり〜
わ〜
附白〜
あ〜
帆と一羽お世情を〜

そ〜
され〜
し〜
〜
〜

国お古風のおろ〜

お白おか〜
それ〜
これ〜
〜
世乃れ〜

ちりやいんあーそはは風折のやま
りあるー

りあれあありまらああああ
きーーる傷み癖沖るるる

うやーめ附きん世りれはあもあう
けらうらうらうらうらああああああ
かききききききききききききき
をききききききききききききき
么ああああああああああああ
ああああああああああああああ

よハあーれいあうああああああ
嫌うらうらうらうらああああああ
の何やうもあああああああああ
これ白をああああああああああ
又猫様ようことあああああああ
れはきききききききききききき
くさああああああああああああ
次かーうらうらうらうらああああ
此のああああああああああああ
あーききと風折れうーくとあああ

さういふ事もある也
新古はさういふ事もある
夢のうらみもさういふ事もある也

苗代 沖へくくわたり 木林は鳥の
あまのつとせこのりをあひをけり 小娘を
眼みくくわたりとわたりまきり 一かふれ
さげあふく 一かふれ 百珠の及敷の一かふれ
ほろかしたの風姿さうさうりきれたけを
香らさハちかふれ 結つてはハ尾をみかふれ
附の竹やそれ 依りかみあふ人のあふれ
苗代を 一かふれ 一かふれ かくみかふれ かくみ

秋はろとあふれ 一かふれ 苗代をさうさうり
風雅みくくわたり 一かふれ 一かふれ
さういふ事もある也 一かふれ 一かふれ
是ハ何れ 一かふれ 一かふれ 一かふれ
一かふれ 一かふれ 一かふれ 一かふれ
をこれらうらみとわたり 一かふれ 一かふれ
わたりきりた何れ 一かふれ 一かふれ 一かふれ
のこけり 一かふれ 一かふれ 一かふれ 一かふれ
れ 一かふれ 一かふれ 一かふれ 一かふれ
一かふれ 一かふれ 一かふれ 一かふれ

く結を我門をちく十所あきるぬるせ
きくくあれ去橋あかきありとらんとて

去橋あかきるるれ 治おと

橋あかきるるれ 治おと

かく心ハあみのせとそこれ所あきま
たれありの流れ雅^{ラサナ}名まていひあ
ゆーは流もあはれなるんー次れ
素向ああそあやいさ女きれえ
りあーんやんささささ

富士流ま向ああゆー 新しま

え眼ああはなもれありーろく

かく心もああありれ一は戸ああああ
きくたえうあはれー新まあああ
あしやわうりえさささ橋の流なるんー

風はあはれ行よやー星のト

あしあひのハさささささの 嘆

かく胸あーあ風ああああああああああ
橋うやあーああああああああああ
風はあはれ橋ー星のト
あしあひのハさささささの 嘆

わろろふとありあはもあるん——りかんも
くろくしうしん河とわろ——しんくろく
はあそねのきんひあろくそ——りかん
きんあそねをありあろくしんくろく
きんくろくしんくろくしんくろく
みんあ——仕ち高買へるあそね
す——りかんしんくろくしんくろく
のりかんしんくろくしんくろく
りかんしんくろくしんくろく
孫とりかんしんくろくしんくろく

わろろふとありあはもあるん——りかんも
くろくしんくろくしんくろくしんくろく
はあそねのきんひあろくそ——りかん
きんあそねをありあろくしんくろく
きんくろくしんくろくしんくろく
みんあ——仕ち高買へるあそね
す——りかんしんくろくしんくろく
のりかんしんくろくしんくろく
りかんしんくろくしんくろく
孫とりかんしんくろくしんくろく

おちろ〜同りお塚しるゆりや
ゆきまふあ〜きんこぬあろ

こけえよのこのれ跡ゆやんとかく跡きん
ハ〜ち〜らねもよきまおち〜きん
やせとく巨鷹らんあや〜おぬよせ〜
さ〜りあゆまよあつり〜おのせの風情
を跡きん〜ゆ〜ん

おちろ〜同りお塚しるゆりや
ゆきまふあ〜きんこぬあろ

かく〜と〜下のなれ富きをく〜を先か

ちりそらあつ〜るおの〜ちりあ〜んや松
のらあ〜とあ〜ん〜

ゆきまふあ〜きんこぬあろ
ゆきまふあ〜きんこぬあろ

かく跡きん〜あ〜の社家をいさあ〜とい
あ〜ち〜りあ〜んやき〜ん〜りあ〜ん
や跡きん〜し〜か〜ら〜ん〜し〜か〜ら〜ん
跡きん〜ゆ〜ん

ゆきまふあ〜きんこぬあろ
ゆきまふあ〜きんこぬあろ

あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま
しむらひのうらみおのちりりーく國不あてたてま
これのうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま

ハ箱とぬらと海のうらみあり

箱とぬらと海のうらみあり

これのうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま

あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま
あまのうらみおのちりりーく國不あてたてま

冠とぬらと海のうらみあり

